

タイトル	基礎デッサン・クロッキー			
学校名	千葉県立松戸六実高等学校	美術	氏名	中田 誠
教材費	約1000円		実施時間数	20時間

1. ねらい

3年選択科目「素描」は、進学でデッサンが必要となる生徒を対象とした授業である。学習意欲や表現力の高い生徒が多いが、1・2年時の芸術で美術の授業を選択していなくデッサンを初めて学ぶ生徒もいる。このため一学期は、人物クロッキーや基本的な形のとらえ方など、デッサンの基礎を学習させる。

2. 材料

上質紙、エスキースブック、画用紙、ユニ鉛筆（6B・2B・HB・H）、練り消しゴム、消しゴム、擦筆、ティッシュペーパー、カッターナイフ、作品保管用クリアファイル

3. 展開（時間）

(1) 鉛筆を削る（0.5時間）

カッターナイフで鉛筆を削る。ナイフの持ち方、削る長さなど、正しい鉛筆の削り方を知る。

(2) クロッキー（4.5時間）

①ルーベンス・アングル・ドガ・ロダンの油彩・彫刻作品とデッサンを鑑賞し、形や線の表現の違いを知る。
また、先輩が描いたクロッキーを鑑賞し、描き方を知る。

②交替でモデルとなり、B4上質紙に一回10分間程度でクロッキーを行う。

(3) 投影図・透視図について（2時間）

①西洋・日本絵画の遠近表現を鑑賞する。

ダ・ヴィンチ「最後の晚餐」、フェルメールの室内風景を描いた作品など、ルネサンスから始まった透視図法を使った作品を鑑賞する。

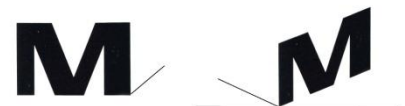
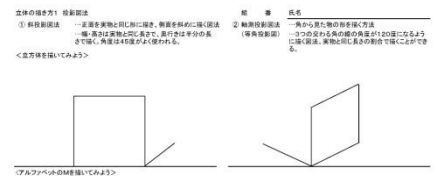
「源氏物語絵巻」の吹抜屋台、狩野永徳「洛中洛外図屏風」などの斜投影法的な描写から、浮絵や、葛飾北斎・安藤広重・歌川国芳などが風景版画に透視図法を取り入れた作品を鑑賞する。

②透視図・投影図で描く

簡単な図形を斜投影図、軸測投影図（等角投影図）、一点透視図、二点透視図で作図して、立体の表し方を知る。

(4) 立方体を描く（2時間）

白ボール紙を敷いた机に10cm角の発泡スチロール立方体を置き、B4画用紙にデッサンする。透視図で練習した奥行き線の描き方に注意して形をとらえる。それぞれの面の明るさの違い、白ボール紙の反射光が面にどのように映るかなど観察して描く。

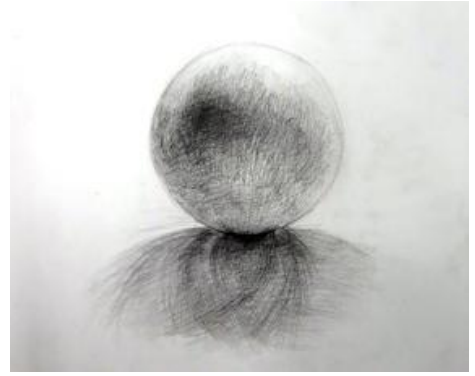


(5) 球体を描く (2時間)

直径 10cm の発泡スチロールの球体を、B4 画用紙にデッサンする。

光の方向をよく観察し、球体のどの部分が一番暗くなるか、また白ボール紙の反射光が球体にどのように映るかなどをハッチングの線などを生かして描く。

白ボール紙に映る球体の影の濃さにも注意する。



(6) 円柱 (紙コップ) を描く (3時間)

手頃な円柱の発泡スチロールがないので、紙コップを円柱の代わりにして B4 画用紙にデッサンする。

楕円形の形、視点の高さで楕円形をどのように描くか、折り返された飲み口の形などに注意して描く。



(7) 各自モチーフを選び描く (6時間)

・幾何形体や、ブロック・レンガ・銀色の飾り球・シャベル・缶など、日常使うものからモチーフを選び描く。

(B3~木炭紙大画用紙)

・手や人物クッキーやデッサン、石膏像のデッサン。

(B4 上質紙~エスキースブック、木炭紙大画用紙)

など、各自テーマを決めて描く。

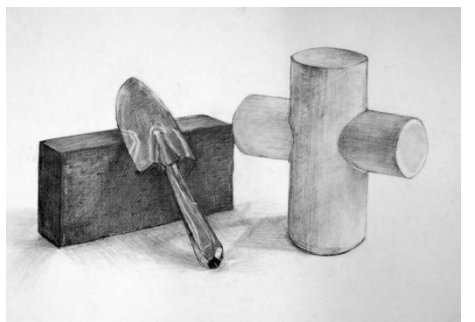


4. 指導上の留意点

立方体・球体・円柱それぞれのデッサンの始めに、描き方のポイントを示したプリントや、先輩が描いたデッサンのコピーを渡し、描き進め方がわかるようにしている。

描き終わった作品は、各自のクリアファイルに保管する。

初めてデッサンを経験した生徒でも、一学期集中して取り組むと、かなり形がとらえられるようになる。夏季進学補習「基礎デッサン」を開講し、継続したデッサンの向上を図っている。



5. 資料・参考文献

学校に送られてきた美術予備校の冊子や、別冊アトリエなどを参考にしている。

